

---

# 基調講演

## 「計算科学技術への期待 理論・実験に次ぐ第三の科学技術」

土居 範久 慶應義塾大学教授（計算科学技術委員会 委員長）

科学技術創造立国を目指す我が国における研究開発の高度化を図るためには、計算科学技術及び高速ネットワーク等の研究情報資源を活用し、欧米諸国等に比べ立ち遅れている研究開発に関する情報化を促進していく必要がある。

例えば、新規物質の創製、大気変動現象の解明、化学物質の人体に対する影響の解析など多くの分野で、理論、実験と並ぶ計算科学技術の発達が必須となっている。

内閣総理大臣の科学技術会議への諮問第25号「未来を拓く情報科学技術の戦略的推進方策の在り方について」に対する答申でも、計算科学技術及びネットワークを活用した研究開発の重要性が指摘されている。

計算科学技術は、研究者にとっての創造的基盤であり、社会全体にとっても知的基盤を形成すべき科学技術であるとともに、この発達により、研究開発の高度化が図られ、ひいては情報化時代の経済構造の変革を誘起するとされている。

本日はこれら計算科学技術への期待と展望について触れてみたい。

講演者略歴 .....

土居 範久（どい のりひさ）

慶應義塾大学大学院工学研究科博士課程修了（工学博士）

慶應義塾大学理工学部教授

科学技術振興事業団 計算科学技術委員会委員長

文部省学術情報センター客員教授

日本学術会議会員

日本学術会議情報学研究連絡委員会委員長

科学技術会議情報科学技術委員会委員等

（専門分野）ソフトウェアを中心とした計算科学